

5月30日（木）王寺町立王寺南小学校の歴史ガイドをしました。

6年生55名、教職員等5名の皆さんを7班に分けて、入鹿の首塚・飛鳥京跡・石舞台・橘寺・亀石・天武持統天皇陵・鬼の雪隠、俎・高松塚古墳をガイドしました。

当学校は毎年この時期にこの行事を組んでいるようです。今年も元気な6年生が来てくれました。



生徒の皆さんは、飛鳥寺の安居院の中で飛鳥寺の説明を受け、飛鳥大仏を見学しました。飛鳥寺は日本で最初に造られた寺で蘇我馬子が建てたと言われています。

都が藤原京から平城京に遷都された時、飛鳥寺も奈良に移されました。その後火災に会い大仏様のみ残ったようです。飛鳥の約1400年前からの歴史を知る飛鳥大仏は、彼等の目にどのように映ったでしょう。



入鹿の首塚は五輪塔で飛鳥寺のすぐ西側にあります。飛鳥宮跡（伝板蓋宮）で中大兄皇子と中臣鎌足達により殺された蘇我入鹿（乙巳の変、通称大化改新）の首が鎌足を追いかけて来た所として、後世の人達により供養のために造られた五輪塔と言われています。現在は付近の人たちによりお花を供え供養されているようです。



入鹿の首塚から周遊道路を飛鳥宮跡へ約10分、田園風景を見ながら子供達は元気に歩いています。この付近の田んぼの約1m下には多くの建物跡等の遺構があるようです。



ここは飛鳥宮跡で宮中の井戸跡が復元されています。井戸の向こうの赤いトタンの小屋付近では大きな建物跡が発見され、この辺一帯で大小さまざまな建物跡や石敷きの道路、溝等多くの史跡が発見されました。日本で最初の都があった所と分かりました。皇居と霞が関と国会が一つになった所とも言えます。やがて藤原京が造られ、この国を日本そして天皇と呼ぶようになりました。子供たちにこんな話をすると、感銘して中には思いにふける女の子もいました。

田園の広がるのどかな風景の中に、こんな素晴らしい都の史跡が眠っています。皆様方もここを訪れた時には、遥か古の都の情景を想像してください。



飛鳥宮跡から約10分、石舞台はすぐ目の前です。子供たちの足取りはまだ軽いようです。



石舞台古墳です。蘇我馬子の墓と言われています。石室は明日香村では最大の大きさです。33個の大きな石で造られ、一番大きな石は約77tで、これらの石はこの場所から更に約1キロ程奥の山から切り出され運ばれて来たようです。

子供達から、こんな石をどのように運んで造ったんですか？との質問に、図で説明すると、なるほど・・・と理解できたようです。



国営飛鳥歴史公園石舞台地区の一角にある「あすか風舞台」にて昼食をとりました。他の学校も一緒でしたので随分賑やかでした。



石舞台地区から飛鳥川沿いに橘寺へ向かいます。約10分の道のりです。



橘寺全景です。創建当時は大小60以上の建物があったと言われています。規模も随分小さくなり聖徳太子座像が祀られる本堂（旧講堂）のみ縮小されながらも様相を保っているが他は全くはありません。発掘により中門、五重塔、金堂、講堂と東西一直線に並んでおり、四天王寺式とも呼ばれています。聖徳太子は厩戸皇子としてこの丘のどこかで生誕し、彼が建てた寺と言われています。創建時期は不明で飛鳥時代は確かと思われるが、発掘調査で飛鳥寺や川原寺の汎用の瓦等が出土して時期がばらばらです。聖徳太子は推古天皇時代で飛鳥の初期、川原寺の創建は中期以降と言われています。聖徳太子の建立した寺は完全な伽藍の寺ではなく、やがて飛鳥時代後期の天武天皇時代に立派な寺となったのかも知れません。



橘寺から約10分で亀石に到着しました。カエルとも言われています。

色んな説がありますが、何のために造られたのか不明で不思議な石です。

子供達の間では、亀かカエルかでちょっとした論争でした。

言い伝えによると、昔西方の当麻の蛇とここに住むナマズが喧嘩して、この地の沼の水が吸い上げられ亀が死んだため、村人たちは亀石を作り供養したそうです。最初亀は北向いていたが今は南西を向いています。亀が西向けば大和平野は泥沼になってしまうと言われています。



亀石から天武持統天皇陵へ徒歩約10分
子供達も少し疲れ気味でしたが頑張って歩いています。



天武持統天皇陵です。陵墓名は檜隈大内陵と言います。
天武天皇と持統天皇が葬られています。八角形で5段の石積みの壮大な古墳だったようです。
鎌倉時代に盗掘に会い、泥棒が捕まったので天武持統天皇陵であることが明白であるとされています。天武天皇は木棺、持統天皇は火葬のため骨蔵器が納められていたが、発掘調査の時には無かった。盗掘者が捕まり金銅製の壺を盗んだことが分かり判明しました。多分盗掘者は金の壺だと思って盗んだのかも知れません。



鬼の俎



鬼の雪隠です。天武持統天皇陵から約5分の所の道路から上の竹やぶの中に「鬼の俎」が、道路から下の畑の中に「鬼の雪隠」があります。当初は何か不明でしたが、やがて古墳の石室であることが分かりました。雪隠と言われる大きな石は俎の上に被せられていたようで何故下にあるのか不明です。何かの目的のために人為的に転げ落とされたのかも知れません。

言い伝えによると、昔この辺は季節により深い霧が立ち込めていました。この山に住む鬼は旅人を捕まえ、俎で料理してむしゃむしゃ食べて下の雪隠で用を足したとされています。

怖い話ですが、子供達への何かの戒めの話だったのかも知れません。

しかし、今の子供達には通用しないようで、話を聞いても驚くことなく平然と受け止めていました。



約10分で 高松塚古墳です。

二段築成の綺麗な円墳です。1972年に発掘され飛鳥美人と言われる装飾壁画が発見され、特別史跡そして壁画は国宝に指定されました。日本の多くの皆様方の称賛を得て華やかなデビュウを飾りました。しかしやがて壁画は黒カビの被害を受け、現在は国営飛鳥歴史公園館の裏の修復館で修復中です。高松塚の発見からほぼ10年、よく似た一回り小さなキトラ古墳壁画が発見されました。高松塚壁画には四神の内「朱雀」は盗掘によりありませんでしたが、キトラ古墳には綺麗な「朱雀」がありました。これで「玄武」「青龍」「朱雀」「白虎」の四神が全部揃いました。この壁画は日本ではこの明日香村だけにしかありません。毎年キトラ古墳の壁画公開と同時に高松塚壁画の修復館が公開されています。もう殆ど修復され、やがて皆様方の前にその素晴らしい姿を見せてくれるでしょう。



高松塚壁画館の見学の後、生徒の皆さんはバスの待つ国営飛鳥歴史公園館前へ向かいました。皆の足取りも軽く元気に歩いています。



バスに乗る前に私達飛鳥里山クラブのガイドにお礼を頂きました。
王寺町立王寺南小学校の皆さんお疲れ様でした。児童の皆さんは、我々ガイドの言うことをよく聞き、また史跡の説明にはメモを取り、時には質問がありました。
飛鳥のすばらしさを知ってもらい、将来彼らの中から素晴らしい考古学者が生まれるかも知れません。そして新しい発見をしてくれるかも知れません。そんな期待を抱きつつ元気に帰る子供達を見送りました。
児童の中に身障者で車椅子で参加されている方もおられました。学校のスタッフの皆さんは出来るだけ皆と共にできるように一生懸命お世話されており、また他の生徒さんの暖かく接している姿に感銘を覚えずにはいませんでした。